

説教題「良い方を選び」2024年8月24日

後宮松代召天記念礼拝

(ユーチューブで音声が届いた後半)

聖書 ルカ10:38-42



まだ若き榎本家女性達。三浦光世・綾子ご夫妻を訪ねる旅に北海道へ！後列左に後宮松代姉、大門誠子姉、前列左から中道悦子姉、榎本和子姉、三浦綾子・光世ご夫妻。

3. マリアでも、マルタでもない松代の選んだ方

さて今回、私はこの記念礼拝の説教をお引き受けし、聖書箇所を決めてくださいと言われた時、なんのためらいもなくすぐさま、このマリアとマルタの二人の姉妹が主をお迎えした時の物語を選ばせていただきました。もうこの有名な物

語に解説は必要ないでしょう。主の訪問を喜び、いろいろもてなしに忙しく働くマルタ。一方、主のそばにただじっと座り、話を聞くだけのマリア。そんなKY空気の読めないマリアに対して、なんとか言ってほしいとマルタは主に懇願するのです。ところが主の答えは、マルタに対して大変厳しいものでした。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」(ルカ10:42)。

この聖書箇所は、説教者泣かせの聖書箇所です。信仰としては、ひたすら主の言葉に聞くマリアの姿勢は正しいでしょう。しかし、マルタのように働く人

を、否定してしまつては、教会は成り立たない。勢い牧師たちは「マリアも良いが、マルタも必要である」などと口籠るのです。信仰と行為とを両立させるとい

うことは、口では簡単に言いますが、それは実に難しいことなのです。料理もできて、信仰も厚い、敬虔な祈りを捧げ、同時に尊い奉仕の業をこなしていく。そんなクリスチャンの鏡のような理想の姿は、美しい誤解に過ぎないのではない

か。きっと私たちは、そのように考えることでしよう。マリアが良いのか、いやマルタも時には必要なのか。そんな矛盾した思いを抱える時、私は、以前この聖書箇所を、アシラム集会で読んだ一人の神学生との対話を思い起こすのです。1時間の静聴、聖書の

黙想の後、彼はこう言ったのです。「先生、もし、このマルタとマリアが反対であったならば、イエスはどうか答えたでしょうか」。この彼の言う不思議な問いかけはこうです。イエス一行を迎えたマリアは主のそばに座り、マルタは忙しくもて

なすために働いている。ここまでは一緒なのです。ところが、ここで、主の足元に座り、熱心に話を聞いていたはずのマリアが言うのです。「主よ、私の姉妹は

先生のお話も聞かずに、ただ忙しくしています。なんともお思いになりませんか。話を聞くようにおっしゃってください」と。「もしマリアがこう言ったならばイエスはどうか答えたでしょう」若者の感性は素晴らしいです。こんな事はどんな

な注解書にも書いていません。けれども、これは事柄の本質を作る問いではなかったか。私はその時、こう答えました。イエスはきくと、マリアに向かつてこう言ったにちがいない。「マリア、マリア、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけ

である。マルタは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」と。大事なことは、何をしているのかではなく、どうしているのか、なのです。奉仕の業を成すならば、それに徹するので。協目も振らず、そのこ

とにのみ集中するのです。また、み言葉に聞き祈るならば、それを徹底的に行い、ひたすら祈り、聖書を読むのです。私たちは、いつもどっちつかずの曖昧さの中で、マリアもいけれど、マルタも必要だなどと口籠つてしまふ。信仰か行いか、祈りか奉仕か、そこに良い

方があるのではないのです。何をしているのかではなく、どうしているのか、そこにこそ大切な良きものがあるのです。

私は、かつて松代さんから、今も忘れることのできない大切な良き言葉を聞かされました。それは、まだ倒れられる前のお元気な頃でした。私たちのアシラムセンターが新しい修道施設「アンナ祈りの家」を購入した時、彼女は後宮牧師と連れ立って、その建物を見に来られたのです。きれいに改装された建物を案内しながら、私は大きな2

メートル四方もある窓ガラス越しに広がる庭を見せ、自慢げに「すごいやろ、ここからこの景色を見たら、聖書も良く読めるようになるで」などと軽口を叩いて



〈三浦綾子文学カレンダー2024年8月〉「本当に武器をもって戦うことではない。」三浦綾子『旧約聖書入門』(十四箴言の項より)(朝日新聞社刊)

いました。すると、松代さんはポツンと「めーちゃん、この窓、誰が拭くんや」と言われたのです。予想もしなかったその言葉に、私は続く答えが見つかりませんでした。この大きな窓を見て、すごいねと褒めるのではなく、それを拭く人のことに思いを致す。これこそが、後宮松代なのです。淡路島で姉弟の世話をする少女時代から、宣教師館でメイドとして働き、大住、世光の教会、保育園を、そしてビスガ甲西、おしどりに至るまで、彼女は何枚の窓を拭き続けたか。ある時は幼い兄弟のために、またある時は兄のために、そして夫のために、家族のために、教会員のために、保育園児のために、父兄のために、そしてご近所、また見知らぬ人のために。彼女はその窓を拭き続けた。そしてそれは、ついに全てが主のために繋がっていくコンマの一つ一つとなったのです。死を持っても終わらないコンマとして、今も私たちの心にその点を打ち続けているのです。



2018年イースター。甲西伝道所にて。

でもない、松代の選んだ良い方がある。それは、確かに「兄の誤解と兄を信用した後宮の誤解」から始まったのかも知れません。しかし、主はきつとこう言うでしょう。「必要な事はただ一つだけ。松代は良い方を選んだのである」と。私たちは今、それを記念といたしましょう。そして私たちもまた、最後のピリオドを打つ時まで、すなわち、主の再臨の日に、再び松代さんと出会うその時まで、このコンマを打ち続けるものになりましょう。お祈りいたします。



リトリート最終のバーベキュー後。話しが尽きず...

ト・アシラムに参
ユース・リトリ
に響いてきた。
が実体験を持って心
夕礼拝のメッセー
ではないという、ち
いろいろ記念チャペ
の願いが「今」叶う
だからこそ、自分
気付かされた。

第3回ユース・リトリート・アシラムに参加させていたいただきました岩崎浩二です。
私の人生には願いが叶えられないように思える時が長く続いている。キリスト教がご利益宗教ではないことは、もちろん承知している。ただ、神様のなされることに、どこか納得

できない私が参加する前にはいた。
しかし、参加後、自分の考えがいかに自分勝手な考え方であったかに気付かされた。特に、黙想の時(シメオン黙想の家のラビリンスを歩いて)に気付かされた。ラビリンスを歩いた。ラビリンスを参加者の皆で歩く時、自分好みの速さでは歩けない。私が今、願っていることは自分好みの速さだけでは進められないことであると気付かされた。

シメオン黙想の家のラビリンスを歩いて

加できたこと、みんな
でラビリンスを歩けた
ことに感謝します。
(カトリック厚木教会)
(元修道場住人)
(早天祈祷会の友)

※ラビリンスとは「ラビリンスは迷路ではありません。外周の円は世界の、屈折した道は「巡礼の道」「人生の道」の象徴と言われます。」
アシラムセンター「アンナとシメオン創刊号」(2021年) 6、7頁より引用



雨の中でもラビリンスウォーク

第3回 ユーストリート アシラムに参加して



今泉 晶久
僕は教会に通っていないし、まわりにクリスチャンの知り合いがいるわけでもない。アシラムセンターにお世話になって以来、毎日聖書を読み祈ってはいるが、祈りというより文句に近い。

世の中の理不尽や、自分の身に起こる都合が悪いことが許せなくて、神に文句を言うのだ。そんな毎日のなかで光太からお誘いの連絡をもらったわけだが、すんなり「参加したい」と思った。

「最近家においてばかりだし、人と会うきっかけになればいいや」というの気持ちだった。いや、本当は神との関係を見直したかったのかもしれない。そして当日、オンラインセッションが始まる前、るつ子さんが「あんた聖書もってないやろ」と聖書を持ってきてくれた。(いつも聖書はスマホ派なのだ) そのとき初めて「みんな聖書に聴くためにここに集まったんだ」と当たり前前のご自分を自覚した。そのくら



榎本てる子師に奨められ、修道場生活。
2017年半年程。(左から2人目)

い神に心が向いていなかった。今回の聖書箇所はエレミヤ書23章だったのだが、31節以降の「託宣」という言葉が気になった。偽預言者が偽りや気まぐれで託宣を語り、民もそれを信じ、その現状をエレミヤが非難している箇所だ。自分の在り方を見直して、まさにこの「託宣」を求めているのだと気づいた。

不都合の具体的な理由や、これから起こることの具体的な結果を把握したくて仕方ないのだ。

しかし37節には「ただ「主はなんとお答えになりましたか。主はなんとお語りになりましたか」と言うがよい。」とある。

ここを読んで、信仰の先達たちを想った。「てる子先生も恵牧師もるつ子さんも「託宣」を知っているから神を中心とした生活を送っているのではない。わからなくても主に聴き続ける姿勢こそがあの生活なんだ」と。

神が「主」で自分が「従」であるという当たり前のことに気づかされたと同時に、信仰の厳しさを感じた。僕はいつも自分を「主」としてしまい、自分も他人も窮屈にする。

(つづく)



◀尾崎幹二兄が、静岡より恵師の弟様をお連れして、シメオン庭のプレートに花束を。



◀黒見妙子姉宅でのちいるば祈りの家の友、横井千鶴子姉(恵師隣)が、ご友人と共に訪ねて下さった。感謝!



まっすぐ走れ 主に帰れ そのままにしておいたなら 心はすぐに 好き勝手なほうに走っていく とまれ 十字架を見て方向転換したら (恵)

みもとに 小林清子姉 哀悼の辞 (9月14日ご召天)

すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。 ルカ 22 : 43



小林清子姉の帰天の報に接し、言葉を失っております。姉が天へと帰られたちょうどその同じ時刻に、私たちは、加古川キリスト教会で祈りを合わせておりました。小林姉が本当に大事にしてくださっていたアシュラムセンターの「加古川祈りの家」の集会です。ご自宅を解放していただき、多くの方々が共に聖書に聞き祈る、そんな集会在、3年余り続いておりました。

今思うと、きっと姉は、この集会在無事に行われるのを見届け、天へと登られたに違いありません。姉のことを思い起こす時、涙が溢れて参ります。主への純粋な信仰、神を愛し、人を愛するその姿勢、それは多くの方々に証されることでしょう。

神様は、きっと清子姉をお側におき、「忠実な僕よ」と声をかけてくださっていることでしょう。悲しみと寂しさの中にあるご遺族、ご関係の皆様の上に、主の慰めと励ましを祈ります。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本 恵



加古川祈りの家、始まりの頃。小林清子姉(後列左)ご自宅にて。2021.11月

池谷治朗様 (早天祈禱会Zoom参加の道を開かれた)

天に帰られてから3年目ですね。その間も多くのアシュラムの方々が帰られましたよ。よろしくお願ひしますね。

シメオン庭はよく風が通ります。もしかして治朗さん? 祈りの友、尾崎恵さん? え? 皆様共に!?

これからも信仰の息を私達に吹きかけて下さいね。



↑「神様のこと思うと痛みを忘れてしまうんです。保郎師も同じなのでは?」「回復して全国やインドを巡りたい!」何も食べられず、腰の激痛の中、力強く語られた。2021.6.28。静岡の食堂にて。この3ヶ月後、天に召された。



↑中山ゆきこ姉(るつこ姉長女)の奏でる響きに鳥も風達も合わせて...

いえじま 雑記 16 沖縄も秋?



長かった夏ようやく終わりが見えてきて、ひとつ、ふたつと立て続けに訪れた小さな台風が、沖縄にも秋の気配を連れてきました。そんな雰囲気を感じたのか、私の役目は終わりましたと言わんばかりに、猛暑を乗り越えるのに不可欠だったリビングのクーラーが壊れました。まだまだ暑い伊江島です。

とりあえず家中の窓を開けて凌いでいます。風に当たれば気持ちいいのですが、蚊にハエ、アリと侵入し放題で、どこまでが外でどこまでが家の中なのかわからなくなりました。

でもあんなに暑がりやで、痒がりだった子どもたちは何なく環境に適応してしまうのですから、頼もしい限りです。汗だくになって遊びまわっています。案外、こっちの方が健康的なのかもしれません。とにかく秋がくるのを待つばかりです。

キリスト新聞で「祈りの風景——この島で思い出すこと」という連載がはじまりました。一年間の予定で、あれこれとわたしの信仰の核となっているような風景について書いていく予定です。何卒、よろしくお願ひいたします。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)

あとがき

まだまだ暑い日が続きます。異常気象がもはや、異常ではなく当たり前ものとなってしまうのではないかと、そんなことを思いながら、中秋の名月を見ています。全国各地で行われる秋のアシュラム集会も、徐々にコロナ前の状態に戻りつつあります。どうか、地域アシュラムが祝されますように祈っております。

いよいよ来年は、アシュラムセンター設立50年の節目の年です。来年の年頭アシュラムには、日本基督教団代田教会の平野克己牧師を嚆矢としてお招きしています。先生は、故加藤常明牧師の説教塾でも活躍されておられます。私たちのアシュラム運動にも、関心を持ってくださり、きっと新しい息吹が吹き込まれるでしょう。どうか、覚えお祈りください、多くのアシュラムの友がご参加くださいますよう、期待しております。また、秋には第20期の国際正義平和アシュラムを、近江八幡を会場に行います。いよいよ、50年の記念の年に向かって、アシュラムセンターは動き始めております。どうぞ覚えお祈りください。



執心でうむくとなく、靈に燃え、主にほえ、望みといて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。ローマ二：11/12 橋本和子

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

10月の聖書教室など	
1(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
7(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
11(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
12(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
14(月)	使徒書に学ぶ会 (Zoom PM7:30)
15(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
16(水)	みんなのカフェいちろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
18(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
20(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
28(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
29(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
29(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
30(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
11/1(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)

10月のアシュラムなど	
14(月)祝	第48回 山陰アシュラム (日本基督教団安来教会) 奉仕者 山陰アシュラムメンバー 080-4593-9242 遠藤誠一師
17(木) 19(土)	修道場アシュラム (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師 0748-33-4030 アシュラムセンター
22(火)	第28回 埼玉一日アシュラム (上尾キリスト教会) 奉仕者 秋山 信夫師 090-2919-3811 秋山信夫師
24(木) 26(土)	第49回 加太アシュラム (加太国民休暇村) 奉仕者 黒田 朔師 072-445-8235 西川武兄

11月のアシュラム予定	
11月4(月)~6(水)	第49回 京浜アシュラム
11月15(金)~16(土)	第22回 愛知アシュラム
11月21(木)~22(金)	第46回 阪神アシュラム
11月21(木)~23(土)	修道場アシュラム
11月28(木)	合同平和祈禱会

12月以降のアシュラム予定	
12月2(月)~6(金)	アドヴェントリトリートアシュラム
1月16(木)~18(土)	第50回 年頭アシュラム

この度の大雨により被災された北陸の方々の一日が
主の御手の中で守られますように… (金子師)
- 早天祈禱会にて、皆心を合わせてお祈りしています -

みことば



日本キリスト教団取手教会
牧師 金子敏明

「自己責任だけでは…」 ルカ15：11～32

放蕩息子の兄弟は二人とも心の闇を抱えているように思えます。最初に弟が「オヤジ、俺がもらうことになってる分の財産、あれ今くれないかな」と持ちかけます。父親はなぜか彼の言う通りにします。弟は財産(土地とか)を全部換金して旅に出してしまいます。そこで放蕩の限りを尽くして、財産をパーにしてみました…。この弟にはある種の虚無感を感じます。家族や周囲との切り離された感じ…自分は一人でやっつけていける。父親もアニキも必要ないとばかりに周りのいう事を聞かない。そして周りから人がいなくなる…そんな人生だったのではないのでしょうか。アルコールやギャンブル、セックス依存などに陥った可能性もある。以前の牧会先の教会はギャンブル依存症のミーティング会場になっていましたが「何百万も借金」「家庭が崩壊」「パチンコ屋を見ないようにしている」どれも切実な叫びが聞こえてきます。このミーティングを通して神様が「よく帰ってきたね」と言われていたように思うのです。

一方の兄。こちらは父のもとでマジメに筋に家業に励んでいたのでしょう。ところが弟が戻ってきて、父にもてなされていたと聞いて激怒します。まるで「アイツがあんなことになったのは自己責任ではないか。この僕には何もしてくれないくせに」とばかりに。それにしても「あなたのあの息子が」とはすごい言い草ですね。これに対して父親は「お前のあの弟は」とはっきり言われます。つまり「あの子はお前にとって決して無関係じゃないよ。血のつながった弟だろ?」と。この言葉を私たちみんながしっかりと受け止めるべきではないでしょうか?

弟が人との関係から切り離されてしまったように、兄もまた人生に成功したようでいて、実は深い闇の中に置かれているのです。「自分のような成功者と弟のような墮落した人間は違うのだ」と線を引こうとしています。これはいわゆる自己責任、というものです。それにしても自己責任絶対主義のようなものがどうしてここまで日本に蔓延するようになったのでしょうか。私たちの国は「貧しい人を助けるべきか」という質問に「必要ない」と答える人が他国と比べてかなり高いのです。なんと貧しい心なのでしょうか。

この弟がこれから毎日マジメに働くようになった、イエスはそんな簡単な話をされてはいません。最初こそ頑張っていたけど、家の金を盗んで街に出かけて酒を飲んで遊んで…そんなことを繰り返してしまうかもしれない。その度に家族も周囲も振り回されるでしょう。ただ決して見捨てはしない。

これは地上のどこにでもある現実を表したイエスのたとえです。私たちは神様の御手の中で共に生かされています。どん底に落ちた人であろうと、自分たちと関係ない人など本当はいない。そして人間は実の意味で自己責任などと大見えを切れはしないのです。神様の愛、イエス・キリストなしには…



「早天祈禱会の祈りより」
今日、あなたのために
もつともふさわしい時に
もつともふさわしい事を
成して下さる主を信じ、
今日も歩むことが
できますように。
(列王記下4)